

今年の種子島鉄砲まつりに合わせて「ポルトガル・パビリオン展」が8月から9月16日まで鉄砲館で開かれています。2025年の大阪・関西万博での展示資料の一部を東京の大使館から運び込みました。

姉妹都市ヴィラ・ド・ビスポの風景画（日高節作）を掲げる鉄砲館の玄関で、公式マスコット「UM（ウミ）」の着ぐるみが出迎えます。企画展示室に入ると、陶製置物のウミちゃんほか、ユネスコ無形文化遺産であるポルトガル北部ポデンセの仮面祭りの人形、特産品のコルクを用いたコルク造形、日ポ両国に自生するスギをデザインしたパビリオンユニフォームのマネキンが並びます。

音楽ファンの目を引きそうなのは、ファドの女王と呼ばれる国民的歌手アマリア・ロドリゲス（1920～99）のサイン入りポルトガルギターです。ボディに記された「Amalia」の丸っこい文字が、往年の歌声を彷彿とさせ、今にも会場に蘇ってきそうに感じます。昨年の方博では展示されていませんが、今回、特別に大使館所蔵品が貸し出されました。

ポルトガル伝統のファドは、哀愁を帯びた曲調から日本の歌謡曲に例えられます。アマリアは、日本なら美空ひばりかもしれません。在りし日の情感豊かな歌声が人々を魅了し続けています。大ヒット曲「暗い舟（はしけ）」（Barco Negro）は、鉄砲まつりレセプションや演芸大会に度々出演している、ポルトガルギター&マンドリンのデュオ「マリオネット」も必ずというほど演奏します。ところで、鉄砲館2階には常設のポルトガル展示室があります。鉄砲伝来450周年（1993年）を記念してマリオ・ソアレス大統領が来島した時の記録をはじめ、ヴィラ・ド・ビスポ市との相互訪問などめずらしい資料が数多く陳列されています。パビリオン展と併せて、2026年夏の思い出になりそうです。



▲「Amalia」のサイン入りギター（奥）